

実務 遺品整理 スタディ

Personal
Effects
Cleaner

みどり産業㈱ 業務部

野田 大

Noda Masaru



vol. 61 野田 大・その1 地元が必要とされるサービス

当社は、もともと市原市を中心に事業系一般廃棄物収集運搬業を手掛け、千葉県内11市町村で許可を持っております。これまででは、お問い合わせが有った際に対応することが多く、当社から積極的にお客様に発信することはありませんでした。転機となったのは2019年10月に大変な被害をもたらした台風15号によるものでした。

市内は台風の爪痕で大きな損害を受けており、さまざまなごみの処理

を求められました。特に家庭系の廃棄物について、どうしたら良いか分からない方からのお問い合わせが多く、私共の仕事とは何かを突き付けられました。罹災をきっかけに一般家庭からの困りごとや、行政のクリーン推進課、生活福祉課など、さまざまな部署にてヒアリングを深めると、多様な問題を抱えていることがわかり、本格的に取り組むべく、社内への稟議を諮り、専門的な部署の立ち上げにいたしました。

当部署では、従来から手掛けていた、粗大ごみ、不用品回収に加えて、遺品整理や空き家整理、罹災・火災案件の家の片付けなどに対応します。スタッフは計7人。うち、1人が事業をはじめると同時に、(一社)遺品整理士認定協会の認定を取得し、他に(一社)生前整理普及協会の生前整理アドバイザーの資格を2人が取得しています。今後、他のスタッフもさまざまな資格を取得する予定です。

建物の解体については、地元の建設業者と連携して窓口を一本化することができ、自社で解体することもある。特殊清掃には直接対応していない

ので、他の業者に依頼する必要がありますが、逆に一般廃棄物の許可を持たない特殊清掃業者から収集運搬を依頼されることが多く、連携を取っています。ただ、当部署は自社で完結することを目的にしているもので、まず地元市原市で、特殊清掃も受けられる体制を今期中に整えたいと考えています。特殊清掃後の廃棄物は、行政によって一般廃棄物か、産業廃棄物かの判断が異なることがあります。当社は両方の許可をもっているため、どちらにも対応できる強みがあります。

営業は、ホームページやチラシよりも、取り引きのある介護施設や排出事業者を通じて行う「B to B to C」がメインです。市原市には、60近い介護施設があり、その大半の施設から排出される事業系ごみの収集運搬を当社が請け負っています。介護施設から利用者が退所する際の部屋の片付けごみは、家庭系一般廃棄物に該当します。しかし、施設の方が、処分の仕方がわからず、事業系ごみとして排出してしまうケースがあるようです。すでに他のサービスを利用してお客様でも、当社で家庭系一般廃棄物を手掛けていることを知らない方も多いため、まずは、

●執筆者プロフィール●

野田 大 | Noda Masaru

業務部の野田氏。昭和49年生まれ。宮城県仙台市出身。7歳のときに現在の千葉県市原市に。拓殖大学紅陵高校卒業後、専門学校を経て、建設業界へ。リフォームなどの仕事に携わる中で、自然とリサイクルにも関心を抱くようになった。2019年に地元のみどり産業に転職し、現職にいたる。好きな言葉は、幼いころから憧れている元プロ野球選手の清原和博氏の言葉である「心願成就」。

当部署を認知していただき、そういった場面で、利用していただきたと考えています。(つづく) W



スタッフのみなさん